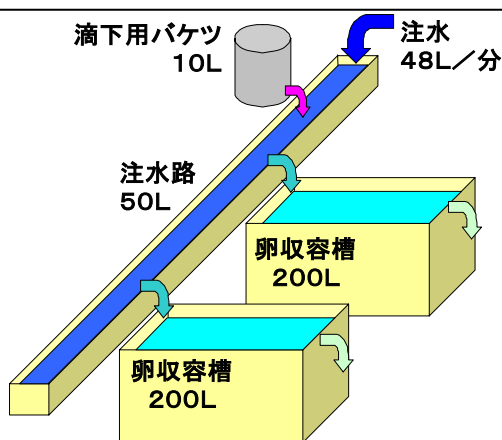


## パイセス使用法 滴下式と循環式

(収容卵40万粒×2槽=80万粒の場合)

【 】は間歇薬浴(倍の濃度)のとき



### 【滴下式の場合】

#### 1 必要薬剤量の計算

##### ①注水量

卵 1 万粒当り 0.6L/分として  
40 万粒×2 槽×0.6=48L/分

##### ②滴下時間と薬剤量

卵収容槽 200L×2 槽=400L  
収容槽の薬剤が規定濃度になるまでに  
400L÷48L/分=8 分 20 秒≒9 分かかる。  
薬浴は規定濃度になってから 30 分間なので、  
滴下時間は 9+30=39 分間  
39 分間の通水量に滴下用バケツ、注水路の容積を加えると

$$(39 \text{ 分} \times 48\text{L/分}) + 10\text{L} + 50\text{L} = 1620\text{L}$$

薬剤量は水 1L に対して 0.1ml 【0.2ml】なので

$$1620\text{L} \times 0.1\text{ml} \text{ 【0.2ml】} / \text{L} = 162\text{ml} \text{ 【324ml】}$$

#### 2 手順

滴下用バケツに薬剤 162ml 【324ml】と用水 10L を入れ希釈し、注水路に設置する。これを 39 分間かけて滴下する。

#### 3 卵 1 万粒当りの経費

1 回当り

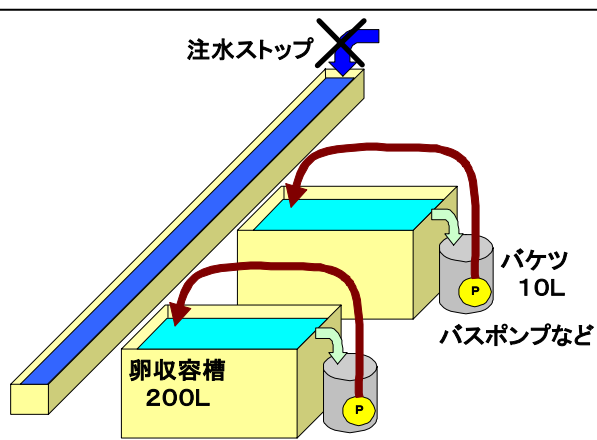
$$(7250 \text{ 円} \div 1000\text{ml} \times 162\text{ml} \text{ 【324ml】}) \div 80 \approx 14.7 \text{ 円} \text{ 【29.4 円】}$$

発眼卵の検卵まで 20 日間とすると

$$14.7 \text{ 円} \times 20 = 294 \text{ 円}$$

$$\text{【2 日に 1 回では } 29.4 \text{ 円} \times 10 = 294 \text{ 円】}$$

$$\text{【3 日に 1 回では } 29.4 \text{ 円} \times 6 = 176 \text{ 円】}$$



### 【循環式の場合】

#### 1 必要薬剤量の計算

卵収容槽 200L+バケツ 10L=210L

薬剤量は水 1L に対して 0.1ml 【0.2ml】なので

$$210 \times 0.1 \text{ 【0.2ml】} = 21\text{ml} \text{ 【42ml】}$$

2 水槽あるので全体では

$$21\text{ml} \text{ 【42ml】} \times 2 = 42\text{ml} \text{ 【84ml】}$$

#### 2 手順

- ① 排水全てをバケツ等の容器で受ける。
- ② 注水を止める。
- ③ バケツに受けた水をポンプで収容槽の注水部へ水を汲み上げる。
- ④ 薬剤 21ml ずつを希釈しながら各収容槽全体に散布する。
- ⑤ 30 分経過したらポンプを止め注水を再開する。

#### 注意点

- ・ 水位低下を防ぐため排水をバケツで受ける際、漏れのないようにする。
- ・ 投薬終了後は注水再開を忘れないよう。
- ・ 酸欠予防のため、卵に影響のないところにエアレーションをしておく安心。
- ・ 循環はそれぞれの収容槽ごとに行う。

#### 3 卵 1 万粒当りの経費

$$1 \text{ 回} (7250 \text{ 円} \div 1000\text{ml} \times 42\text{ml} \text{ 【84ml】}) \div 80 \approx 3.8 \text{ 円} \text{ 【7.6 円】}$$

$$20 \text{ 日間の経費 } 3.8 \text{ 円} \times 20 = 76 \text{ 円}$$

$$\text{【2 日に 1 回では } 7.6 \text{ 円} \times 10 = 76 \text{ 円】}$$

$$\text{【3 日に 1 回では } 7.6 \text{ 円} \times 6 = 46 \text{ 円】}$$